

《HP版》

# ぶな

2020年9月号

NO. 498



滋賀県勤労者山岳連盟 比良雪稜会

《目次》 -HP編集-

■目次	-----	1
■巻頭言	-----	2
■例会山行報告		
「ちょこっと山行」	-----	3
■個人山行報告(寄稿順)		
「大文字山」8月12日	-----	4
「八方山/乗鞍岳」8月8日~9日	-----	5
「赤岳/硫黄岳」8月7日~8日	-----	7
「木曾駒ヶ岳」8月14日	-----	9
「経ヶ岳」8月14日	-----	11
■例会案内		
「クリーンハイク(清掃登山)」9月27日	-----	13
■寄稿文		
天然記念物「岩間の噴泉塔」 M.S	-----	14
「残暑お見舞い申し上げます」S.M	-----	15

(表紙写真)撮影:K原

8月8日例会 コヤマノ岳

## 【巻頭言】

最近外出すると殆どの方がマスクをしています。逆にマスクをしていなければ外出できないという雰囲気になってきました。

しかし、マスクをしたら感染しないという勘違いが生じているように思います。

先月西穂高独標に登り、その際西穂高山荘に宿泊しました。この山荘の感染症対策をご紹介します。

売店やそこに併設しているテーブルには間仕切りがしてあり、当然入り口には除菌スプレーが置いてあり、スタッフが手の消毒をするよう促されていました。

宿泊の受付の際、検温・アルコール消毒を行い、クラスターが発生した場合の連絡先を記入し、部屋に案内されました。1階及び2階のいたる所にアルコール除菌剤が設置されていた。また、食堂もグループごとに間仕切り及びビニールシートがしてあり、グループ間の間隔も取られていた。極めつけは調味料やご飯のお代わりをする際、必ずアルコール除菌をさせられました。

また、宿泊されている方もまめに除菌をされていました。

これだけ厳密に対策をされていると安心感がありました。マスク云々より手の消毒に重点を置いた対策だと思います。

私も常に携帯用のアルコール除菌スプレーを持ち歩いています。何故かというと、コロナは空気感染しません。接触感染が原因だと言われています。その為、まめに手の除菌をし、嗽をするよう心がけています。特にスーパーやコンビニに行った後は必ず行います。

当然社会常識としてマスクをしなければならないと思います。しかし、それ以上に手洗い・嗽はまめに行い、会食の際は各々が直箸をしない事が重要だと思います。これだけ無症状の感染者が増えてくれば、自分の身は自分で守る事が重要だと思います。(あくまでも私見です。)

K井 裕

《例会山行報告》

ちよこつと山行

比良山系 シャクシコバの頭(1127m)～コヤマノ岳(1181m)

2020年8月8日(土) 曇り

CL:K.H SL:K.K 救急:Y.Y S.M 記録:M.K

◆7時 イン谷ロトイレ前駐車場集合

「イン谷口は初めて」という宮原がいきなり集合場所を間違え、出発が7:26と出遅れる。標高:記録係の時計で352m(以下山頂の標高以外は同じ)

7:45～7:50 最初の水場で休憩。気温30で冷たい水が美味しい! 480m

8:35～8:40 青ガレを過ぎた所で休憩 708m

9:23～9:32 金糞峠を下りた河原で休憩(金糞峠手前正面谷の急登で宮原がプチ熱症)

10:05 休憩 1005m

ホトギスの花に和む

いよいよ登山道でない尾根道を少し藪漕ぎして登攀。CLのルートファインディングの腕の見せ所。周りは杉林。足元は杉の小枝が敷き詰められています。

11:00～11:30 シャクシコバの頭 昼食 1121m

美しいブナ林の尾根道を涼しい風が吹き抜けます。

11:59～12:10 コヤマノ岳 1181m。残念ながら琵琶湖は見えません。

12:45～12:50 分岐で休憩。右(西)へ下りれば早いですが暗く足元が悪いとの事で、少し遠回りになるも林の明るい左(東)へ。904m

八雲ヶ原からの道へ合流する渡渉の際に、山口さんが転倒、左手首を軽度の骨折。

13:10～13:25 金糞峠 山口さんの左手首を断熱シートとテーピングテープで固定。

荷物は一部を斎藤さんが持ち、ザックは小原さんが背負う。

(全治1ヵ月との事、お大事に!)

14:04 正面谷の急坂を無事下りて休憩 713m

14:40 最後(最初)の水場で休憩 480m

15:09 イン谷ロトイレ前駐車場に帰着、解散。



(ヤマジノホトギス)

＜一口感想＞ 下界は、35度の酷しい暑さのなか、シャクシコバの頭、コヤマノ岳の、風のおおるブナ林で涼むことができました。比良の魅力にますますはまっています。CLさんはじめ、皆様お疲れさまでした。有り難うございます! S藤

## 《個人山行報告》

### 大文字山 (3△465.3)

8月12日晴れ 1人 K原 (枯れ木も森の何とかと思い、1ページを頂くことにした。)

この週は子供らの3家族が千葉、横浜、福岡から帰省してくる予定であったが中止にした。毎年琵琶湖を楽しみにしている孫たちには悪いことをした思いがする。

朝、急にビールが飲みたくなり、家内に「京都に行く、山科から大文字！」と、何年も同じ言い方で行き先を告げて家を出る。これで「京都にビールを飲みに行く、山科から大文字山に登り河原町三条で一杯やる」と言うことが伝わる。

JR山科駅10:30にスタート、いつもの山道が倒木で通行禁止、やむなく迂回林道を行く。やがて山道に取りついて15分、京都トレイル(44-1)に合流、ここから10分で大文字山12:07着。山頂は予想どおり登山者はちらほら。お昼は水腹のせいか、おにぎりは一個で済む。

この日の下山は、先日大文字いたずら点灯や送り火の縮小実施で話題になった大文字火床から銀閣寺に下るコースを取った。15分程で火床12:30着、広い展望空間に学生らしい人がぼつんとスマホをしている。コロナとは言えお盆の時期に異常な程人がいない。これは麓の銀閣寺でも同じで閑散としていた。これでは京都の観光業は大変だろうなと思いつつ銀閣寺前を通過する。

ここからがウオーキングコース、哲学の道から知恩院、蹴上、河原町三条と歩いて目的地にゴール14:10した。ピヤレスは待たずに着席、いつもの10ジョッキーで一人乾杯、下山後のビールは格別に美味しい、理屈抜きに美味しい、この至福を求めて山を越えて来た。家内にはバカにされるが止められない。土産に京漬物と和菓子を買って地下鉄三条京阪から帰途に。以上



(大文字山火床)

〈個人山行報告〉

## 八方山・八方池

日時 2020年8月8日(土)

天候 曇り時々雨

参加者 CL:H島 SL:H浦 T啓 K林

行程 黒菱リフト 6:45～八方池山荘 7:00－八方池 8:00(散策)－丸山ケルン 10:00(昼食)－八方池山荘 13:00～黒菱P14:00

空一面のぶあつ～い雲とガス・・ではあるものの、もしかして一瞬ドバッと晴れて美しい光景に巡り合えるかも・・との一縷の望みをもって早朝のリフトに乗る。八方池小屋から延びる整備された木道の散策道には高山植物が満開。所々に花を紹介する立札があり、一つ一つ確認しつつ進む。八方山を越え八方池へ。曇り空でも八方池はそれなりに美しく、楽しく散策。その後丸山ケルンまでは進むも、強風と落ち始めた雨に撤退決定。雷雨にあわず良かったです。



<個人山行報告>

## 乗鞍岳・白馬大池

日時 2020年8月9日(日)

天気 雨後曇り

参加者 CL H島 SL H浦 T中啓 K林

行程 梅池山荘登山口 8:00－天狗原 9:20－乗鞍岳山頂 10:35－白馬大池山荘  
11:15(昼食)12:00－天狗原 14:05－梅池山荘 15:20

早朝、樋浦さんの言葉を借りれば『心が折れる』雨、比べれば小雨に思えた出発時も、やはり雨具装着必須。梅池自然園前でガイドさんよりアドバイスを受ける。曰く『登山道はどこも雨で歩きにくい、大池までピストンは時間にゆとりをもって行動すること！焦って下山時に転倒する人多数』。肝に銘じて出発。天狗原までは足元より雨具の暑さに辟易。天狗原から乗鞍岳山頂へは岩ゴロゴロの急登や一部残る雪渓に冷や汗、やっと到着の乗鞍山頂からは強い向かい風。山頂で目前に見えた山荘は思った倍も遠かった。が、到着の大池は美しい別天地。雨はやんだもののぬかるんだ泥道、濡れた木道、滑りやすい岩。登りと同じ時間をかけて無事下山。にしても素敵だった白馬大池、次は山荘に宿泊したいです。



## 《個人山行報告》

### 南八ヶ岳(赤岳～硫黄岳)

日時:2020年8月7日～9日

参加者:CLK嶋、SLK井、S水、I藤(友人)

工程:8/7 自宅 3:00～赤岳山荘駐車場 8:00～行者小屋 11:35(幕営)

8/8 行者小屋 5:10～中岳分岐 6:18～赤岳 6:55～赤岳天望荘 7:40(休憩)～横岳 9:15～硫黄岳 10:20～赤岩の頭 10:40～赤岳鉱泉  
11:50～行者小屋 12:40(撤収)13:40～赤岳山荘駐車場 16:40  
～エクシブ蓼科 17:50(泊)

8/9 エクシブ蓼科 8:45～帰滋

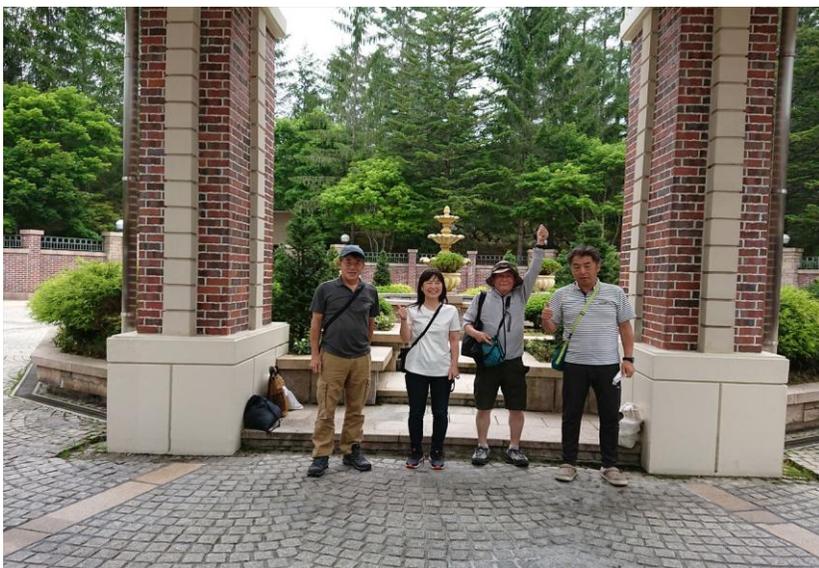
当初は劔岳の計画がどうも天気が悪いようだとの事で、急遽比較的まだましな八ヶ岳に変更した。願い通り終日ガスってはいるものの、雨には降られず初日の行者小屋のテント場に幕営することが出来た。

二日目、相変わらずガスってはいるものの、雨には降られずテン場を出発。

文三郎尾根の急登を喘ぎながら高度を上げて行く。今日は軽荷での歩行なので、赤岳から横岳の岩稜帯も全員スムーズに通過出来て、予定より早く下山する事が出来たので、予定を変更してエクシブ蓼科に予約を入れる。三日目、布団でぐすり寝る事が出来たので、昨日の疲れもすっかり取れ、無事に滋賀に戻った。

(記録:K嶋)





## 《個人山行報告》

### 木曾駒ヶ岳

(伊那前岳・中岳・駒ヶ岳・宝剣岳)

日 時：2020年8月14日

参加者：CLK嶋、SLK井、I井、S水、I藤(友人)、S水(娘)

工 程：自宅 1:00～菅の台バスセンター駐車場 4:20～しらび平駅(駒ヶ岳ロープウェイ)

6:20～千畳敷駅 6:40～乗越浄土 7:54～伊那前岳 8:26

～宝剣山荘 8:57～中岳 9:21～駒ヶ岳頂上山荘 9:30～木曾駒ヶ岳山

頂 9:50(昼食)～駒ヶ岳頂上山荘(巻道) 10:34～宝剣岳 11:35～極楽平 13:07

千畳敷駅 13:33(駒ヶ岳ロープウェイ) 14:48～しらび平駅 14:56～菅の台バス

センター15:30～早太郎温泉(入浴)～帰滋

◆久々の晴天に恵まれ、木曾駒ヶ岳(伊那前岳・中岳・駒ヶ岳・宝剣岳)の4山を縦走することができた。まずはカールの急登を登り乗越浄土を経て伊那前岳へ。絶景を楽しみつつ乗越浄土に戻り、中岳、木曾駒ヶ岳に登頂。そのあと中岳の巻路を進み、ヘルメットを被りいよいよ宝剣岳へ。山頂から南西側は高度感たっぷり、足がすくむ岩場が続き緊張したが、岩稜帯に挑戦できる良い経験となった。

お盆でも多くロープウェイやバスの乗り降りに時間がかかったが、駅から見た千畳敷カールの迫力、山頂では360度のパノラマビュー、遠くに富士山も観る事ができ感激。日帰りのハードな日程となったが早太郎温泉で汗を流して、駒井氏の安全運転の元、無事帰途についた。(記録：S水)





〈個人山行報告〉

経ヶ岳（往復）

元々は8月14～15日に白山登山の予定であったが、前日の福井・石川県の大雨のために白山の登山口への道が通行止めになり、急遽、福井県内最高峰の経ヶ岳への日帰り山行に変更になった。

日時：2020年8月14日 山行は日帰り。3名は勝山市の民宿に前泊。

天候：晴、下界は猛暑日 全員が「勝山ニューホテル」で後泊。

CL：M尾幸一 SL：F野健太郎 会計：K林智子・S藤宗子 記録：M原健一郎

5:30 民宿発

6:20 広域基幹林道駐車場着（途中、舗装された林道上にも小規模の土砂崩れがあり  
全員手作業で大きな石を道路外へ除去した。果たして登山口までたどり着ける  
か不安になる）

6:58 登山道入り口出発 931m（以下、山頂以外の標高は記録係の腕時計の高度計による）

7:38～7:49 「アダムとイブ」（2本の別種の樹木が合体している）にて休憩 1084m

8:10～8:19 保月山山頂 1272.8m

8:56～9:00 大野盆地が見渡せるところで休憩 1382m

9:12～9:25 釈氏ヶ岳＝杓子岳山頂 1448m

9:50～9:58 中岳山頂 1467m ヘリコプターで下ろしたままで  
閉ざされたプレハブの避難小屋が置いてある。背丈  
を超える笹林の中を進む。

10:11～10:17 切窓 1392m ここから急登

10:46～10:56 見晴らしの良い「テラス」で休憩 1505m

11:07 経ヶ岳山頂着、11:22 三角点着 経ヶ岳山頂で昼食。暑い！テルモスを  
置いているだけで熱くなる！

12:05 発 登り以上に下山がたいへん！

12:51～12:56 切窓新しい木製の階段  
90段を登る

13:28～13:35 中岳山頂

13:53～14:00 釈氏ヶ岳＝杓子岳山頂

14:42～14:52 保月山山頂

15:16～15:26 「アダムとイブ」斎藤さん

のテルモスの氷で熱中症気味の皆が癒された。

16:00 登山口帰着



(一口感想)

◆「厳しい暑さの中での山行で、経ヶ岳への今回のコースは初めから終わりまで足元が悪く、急登、急坂有りて私にとっては大変厳しいものでした。3ℓの水も最後の方は無くなり、斎藤さんからもらった氷はかき氷を食べているようで大変うまかった。へとへとで下山しましたが、山には又行きたいですね。」 F野

◆当日朝、それも第一陣が家を出てからの通行止め情報で白山断念。

も、予備計画第二弾実行に速攻の変更となり、快晴の空の下で山頂に立てました。経ヶ岳の最後はとんがりコーンを登っているかのような斜度でした。登ることができて、降りることもできて、登山道を振り返ってみる度に嬉しくなりました。 K林

◆経ヶ岳登山は、保月山コースをのぼりました。展望台から保月山・釈氏岳(杓子岳)・中岳と進む、わかりやすい尾根道でした。中でも、保月山の登山尾根にある溶岩の固まりは、かつての火山活動を彷彿とさせてくれ、そこをまたいで登るのは気分が良かった。山頂まであと30分のところで現れる「切り窓」の急斜面は印象的で、1625mを甘くみるなよ、と言われていたかのようなようでした。お天気よく、熱中症に気を付けながら歩き、下山後は素敵な豪華ホテルへ。美味しいので思い切り食べたバイキング、体重はプラスになったことは言うまでもありません。CLの長尾様本当にご苦労様でした。メンバーの皆様、ご一緒できて楽しかったです！有難うございました！ S藤

◆経ヶ岳は昨年の例会で中止したコースでしたが暑さの影響もあり予想以上に時間がかかりました。別山～白山は中止せざるを得ませんでした。結果的には良かったように思います。これでは当初の計画通りには歩けなかったかもしれません。 N尾



# 第48回 クリーンハイク(清掃登山)

2020年9月27日(日)

## 小雨決行

6月が中止になりましたので、県連交流山行として実施する事になりました。  
両コースともに他会の方5~6名受け付けます。

① コース 白滝山・打見山(定員20名) JR 堅田駅 8:30 集合

堅田駅 8:50 発=(バス)=坊村-白滝山-オトワ池-打見山=(ロープウェイ)=山麓駅

② コース 小女郎峠・打見山 JR 蓬萊駅 9:00 集合

蓬萊駅-小女郎谷登山口(計量)-小女郎峠-小女郎ヶ池-蓬萊山-打見山  
=(ロープウェイ)=山麓駅

<持ち物> 水、昼食、雨具、その他日帰り装備、マスク・アルコール等感染予防対策、レジ袋、ゴミ拾い用トングがあると便利です

<参加費> 堅田から坊村のバス代(20名分)は、江若交通さんのご協力により半額、残り半額は県連より補助が受けられる見込みです。  
また下山のロープウェイは、びわ湖バレイさんのご協力により、無料。

<申し込み締切り> 9月20日

☆会の重要行事の一つです。皆さん都合付けて参加しましょう！

☆参加者は全員役割分担がありますので、ご協力をお願いします。

☆今回一般募集はしませんが、会員の知り合いのみ参加可能です。

☆参加者は、新型コロナウイルス感染症の予防をしっかりとお願いします。

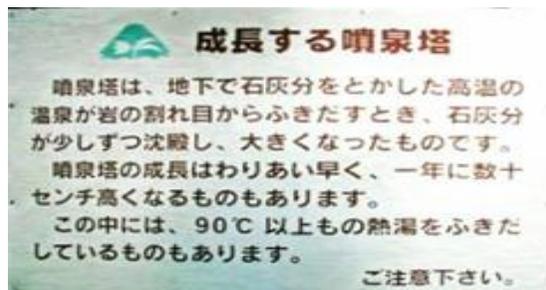
## 国指定天然記念物「岩間の噴泉塔」

記：M藤

「加賀の白山」に初めて登ったのは東京支店勤務の時、京都本社に出張のあった 27 歳の頃だったと思う。本来なら東海道新幹線で東京～京都に行くのだが如何しても「加賀白山」に登りたくて、金曜日の夜、キスリングに背広をぶら下げ東京～夜行列車で北陸本線経由で福井駅に早到着、背広を駅に預け、室堂泊の一泊二日で白山に登り、下山後、温泉に入り、背広に着替え、ザックは駅留めで東京に送付。その「列車」待ちの間、観光案内所で国定天然記念物「岩間の噴泉塔」の事を知る。

定年間近の 2000 年 9 月、長らく土砂崩れで不通になっていた「岩間温泉」の道が開通した事を知り、「岩間の噴泉塔」の事を思い出し、もし機会があれば行ってみたいと思い岩間温泉に女房と二人で出かける。岩間温泉も登山道の奥にある無人の露天風呂も綺麗に改装されていた。「岩間の噴泉塔」迄は、岩間温泉からは歩いてしか行けない。岩間温泉～無人の露天風呂迄は登りで、そこから川底にある「岩間の噴泉塔」迄は、下りで往復 3～4 時間位だったと思います？（現在は土砂災害等で不通の様です？もしも行きたい方は現地確認を忘れずに）

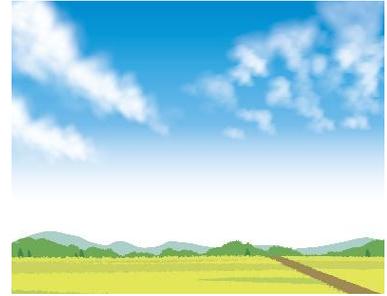
下記に写真を添付しますが、まさに、見事なジオラマです。



## 残暑お見舞い申し上げます

コロナ禍&猛暑、豪雨の中、皆さんお元気にお過ごしでしょうか。  
なかなかお会い出来ませんので、近況報告させていただきます。

今年は、5月の連休にもお盆にも息子は帰省しませんでした。地域の行事もストップしたままです。先日も親戚に不幸がありましたが、身内だけで静かにお葬式が執り行われました。全国的にも大事に守り継がれてきた伝統や風習も、ずいぶん様変わりを余儀なくされています。今までは、煩わしい行事がないと楽だと考えていましたが、いざ人と人がつながれないというのは、本当に寂しいことだなあと  
思う今日この頃です。



さて、自分自身の最近はというと、還暦を過ぎて「さあ、人生 100 年時代、これまでやってきてないことに挑戦し、これから自由に気がむくままに生きたい。」「人間 60 歳からが一番おもしろい。」の言葉に煽られてはじめた山歩きと新しい仕事。山の会に参加し、自然の美しさに改めて感動し、自分の住んでいるところがいかに素晴らしいか再発見できたこと、優しく心温かい皆さんから山の魅力を教えていただけること、毎回わくわくどきどきの体験でした。仕事も、長年慣れ親しんできた職業とは縁もゆかりもない分野の仕事で、1つ1つゼロから覚えていく面白さを感じながら「まだまだ動ける！動きたい！」そんな思いで張り切っていたのですが、体力的にも理解力の面でも知らず知らずのうちに、ぐっと落ちてきていました。夏の山行案内を見ても最近歩いてないから足も持たないのでは？等々考えると、膝まで痛み出す始末。ついつい膝を無意識のうちにさすってしまっています。仕事の動きもなかなか難しい。何かが違うぞと思いつつもやもやもやした日々。でも、この自粛によって、よい意味でクールダウンし、足元をしっかりと見て少しは自分を落ち着かせることが出来ました。気持ちだけで脇目も振らず上へ上へと登っていたところがありますが、五木寛之の「元気に下山」によれば、着実に人生の下山に向かっているんだと今更のように自覚したよい機会でした。

あれもこれもと欲張らなくても、現実を受け止めながらも、登るときには味わえないような下山の醍醐味を感じつつ（実際の私の登山は、登りも下山も全く余裕ありませんが…）、自分なりに楽しい毎日にしていきたいと思うようになりました。

9月には、どうか山行に参加できますように。

お会い出来ることを楽しみにしています。



S井まつ江



滋賀県勤労者山岳連盟

## 比良雪稜会

滋賀県大津市和邇今宿 712-1 西村方

TEL&FAX 077-594-0454

E-mail [kazuyo-buna@river.sannet.ne.jp](mailto:kazuyo-buna@river.sannet.ne.jp)

HP <http://www13.plala.or.jp/momizawa/hira/>